

「失敗のその先」

2025・10・10 校長 重枝一郎

よく「トライ＆エラー」や「エラー＆ラーン」という言葉を聞きます。それは、「失敗」は人にとって重要な力を生み出すからです。「失敗」は成功からは得られない成長と発展の機会を提供します。

では、具体的にどんな価値があるのでしょうか。

1つ目は、失敗によって自分の弱点や改善の必要な点が明らかになることです。つまり自分をよく理解することができるということです。

2つ目は、失敗をしたら、どうすればそれを回避できたかを必ず考えます。自分の行動を振り返るプロセスで学ぶのは批判的思考力です。これは高校生が身に付けておくべき最も重要な力を言われます。単に否定的に捉えるひねくれ者ではなく、客観的に、本質的に物事をみて意思決定する力のことです。

3つ目は、レジリエンス（しなやかで折れない心）の向上です。私は特にこの点を強調したいと思っています。失敗経験での学びはこれからの人生をしなやかに生きるための大きな力となります。

4つ目は、イノベーションのきっかけになりうるということです。ビジネスの世界では多数の例があります。例えば、アメリカの3M社が簡単にはがれてしまう接着剤をつくってしまったという失敗から、ポストイットという世界的な大ヒット商品を生み出したエピソードは有名な話です。

5つ目は、本気だったかどうか、本当にやりたかったのかどうか、自分に合っていたのかどうかなど、本気で自分のことを考えることをします。そこが再確認できたら、またチャレンジするモチベーションにもなります。

「失敗」にこのような価値があると捉えると、必ず成長できます。なかなか思い出すことは難しいことですが、赤ちゃんの時は、数々の失敗をしながら成長していきます。そうして今の自分がつくられています。赤ちゃんは、初めてなことだらけなので失敗だらけです。でも今のみなさんもこれからの世の中のことなどわからないので、失敗するのは当然なのです。赤ちゃんの時には、一歩踏み出す勇気を誰もがもっていたのです。

以前、「アジャイル」という言葉を紹介しました（2023 センスオブミッション11月号「行動のレパトリを増やせ」）。成長戦略において、「早く失敗し、早く学び、早く成長する」という意味です。今の世の中はこういう考えでないと生き残ることはできないと言われています。文具メーカーとして知られるコクヨでは「人より先に失敗する」という言葉をスローガンとして、会社内にチャレンジの風土をつくったと言います。本校で言えば、それが「チャーミングなファーストペンギン」ということになります。また、失敗をみんなで共有することも重要だと言います。そのため、失敗を称え合うことをするそうです。

そんな学校風土をつくるために、学校ではやってはいけない3原則があります。

①命の危機に関すること ②法律に触れること ③人の成長を邪魔すること

この3原則を守っていれば、チャレンジすることを不安なくできると思います。「うまくいかないことが分かったから大成功だな」のような失敗に意味を生むことができます。

こんな経験はありませんか。「散髪に行って、髪を思ったより短く切られてしまった」その経験から「人に頼むときは、相手がわかるように言葉を補いながら伝えなくてはいけないんだな」と学んだはずです。思い通りならなかった経験が自分の言葉を育てるのです。これからもみなさんには、みなさんの未来につながる「失敗」をたくさんしてほしいと思います。